

「変人」と云われる人こそ、最も「普通人」かも…(^o^)

当 HP にしばしば書籍の読後感を掲載しているが、それら書籍のジャンルから分かるように、自分はノンフィクションもの、更にどちらかという世間的に表ものより裏ものの方に興味・関心がある。

(厳密に言えば、選んだ言葉を口に出したり、文章にすると、それはもうフィクションとなる。

ノンフィクションとは、生きよう(様)に接するしかないと思うが、全ての人の生きように接する事は叶わない話だし……。)

また、ノンフィクションでも、今の世相の理解に参考になりそうなものは、更に興味をそそられる。

そうした意味では、正に政治・政界ものは、自分も今、この時を生きているだけに、なおのことである。

それだけに、店頭で田原総一郎と飯島勲秘書官の長時間の対談録の「小泉官邸の真実ー飯島勲前秘書官が語る!ー」を目にし、にもなく購読した。

飯島氏は、小泉前総理が代議士初当選以来からの秘書であり、小泉内閣時代は、首席総理秘書官と内閣の政策担当秘書官を務め、「官邸の陰の総理」とまで噂され、今も小泉純一郎議員の政策担当秘書官である。

田原氏は、TV等でなじみの顔で、突っ込みの鋭いジャーナリストである。

この二人の対談だから、小泉内閣時代のあらゆる国策、政策、政治情勢、その裏事情、等々、読んで面白くないはずはないとの期待通り、いやあ〜、自分の読書欲を十分に満足させてくれる書であった。

小泉内閣の評価が出るのはまだ先のことだろうから、ここで小泉内閣の政治的な動きをあれこれコメントするつもりはないが、小泉氏といい、飯島氏といい、やはり時代や物事の先を読むことに才長けていたことは凄い!と、対談録を読んで思った。

時代、世相の先を読むこの鋭い感覚からの行動が、時に「小泉総理は、変人!」と評されたのかも知れないが、どうも「変人!」と評する霞が関という政界こそが変人の集まりで、変人と評された小泉氏が国民に近い感覚の普通人なのかも……。

こうした観点で見ると、また、先の宮崎知事選と重ねると、「普通人」に直接語りかける政治体質、選挙体質へと徐々に変容して行くような予感…。

さて、当 HP 開設は小泉内閣発足年と重なり、自分のプロフィールに「変人」を借用記載したが、自分も「変人」でなく、最も「普通人」であるということかな? (^o^)